

CAGLIERO 11

サレジオ会宣教ニュース



205 2026年 1月

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

私たちは、「時間」に刻まれた社会に暮らしています：あらゆる活動を計画し予定を立てる世界のただ中で生きるよう、私たちは時間によって強いられます。次のように自問するのは良いことだと思います：私は自分の時間の主人だろうか、それとも時間が私の主人だろうか？

私たちはいろいろなことを「する」リズムに埋没するあまり、行っていることを立ち止まって味わうことがめったにありません。時間が生活のリズムを刻み、家に帰ると落胆するのです：やろうと思っていたことを全部できなかつた！ そして次のせりふをよく耳にします。「もう何もする時間がない」。でも時間は、いつもと同じだけあります。

友人の皆さん、自分の時間の主人となり、あらゆる活動、そのあらゆる瞬間を楽しんで生活するよう招きます。「する」ことが「在る」ことを支配することのないようにしましょう。立ち止まり、私たちの行っているあらゆることについて考えるのは良いことです。待降節は、在ること、することについて思い巡らし観想するのにふさわしい時です。

Edwin Marcellus Coro-Nel
SDB

■ インターアメリカ
宣教促進地域コーディネーター
エド温・マルセロ・コロネル神父,
SDB

Corso Germoglio新芽コース2025： 新宣教師は何を学んだ？



2025年10月5日から11月12日にかけ、新宣教師のためのジエルモリオ（新芽）コースが新たに開催され、第一回宣教派遣150周年を記念する祝祭をもって締めくくられました。次の問い合わせの12名の受講者の回答を紹介します：

派遣される宣教地に希望をもたらすどのようなことを、ジエルモリオ・コースで学びましたか？

- 飾らない態度、真実な在り方、耳を傾けることが人の心を変えるということを学びました……喜びを種蒔き、優しく人々に同伴するための道具をこのコースでもらえました。
- 私たちは神の道具です。神とドン・ボスコのカリスマに忠実でなければなりません。
- 神はサレジオ会の兄弟会員、特に宣教部門チームを通していつも共にいてくださると学びました。私にとって兄弟の中の兄弟だと思っています。このコースで見いだし、宣教地に持つて行きたいと願っている希望は、「家庭的精神」です。
- 何よりも、神の呼びかけに忠実であること。状況に適応し、喜びながら。
- さまざまな国の若いサレジオ会員と共に生活し学んだことで、文化の分かち合いのすばらしさに目を見開かされました。食事や祈りを共にし、共に笑い、夢を分かち合つたことは、サレジオのカリスマによって一つに結ばれる諸文化のモザイクを作り上げました。
- イエスとの親しいきずな、予防教育法の実践の大切さ、特に、宣教地の最も弱い人々への慈愛の大切さ。
- サレジオの真の家庭的精神の体験。愛、思いやり、分かち合い、共に遊び、祈ったすばらしい体験を、新たな管区で培い、分かち合っています。
- 宣教の次元が、世界において私たちの修道会を生かし続けていること。
- イエスが中心であり、したがって行動する前にいつも神のみ旨を識別すること。共同体として働くとき、多くを成し遂げられること。
- 自分は決して一人ではない。会が、共同体が共にしてくれる、先を歩んだすべての宣教師が共にしてくれる。ドン・ボスコが共にてくれる。自分の弱さ、強さを抱いて宣教へ出向く、それが私のささげもの。
- 自分に起こるすべてのことに靈的な意味を見いだすこと、謙遜と、まず自分に対する、それから人に対する忍耐を身につけるよう努力することを学びました。
- 宣教地の環境では、開かれた心、忍耐をもち、祈りの生活に忠実でなければならないことを学びました。

振り返りと 分かち合いのために

- 2025年に新たに学んだことは？
- 私の生活の「宣教的次元」で、希望をもたらすものは何？



神のみことばに養われ、 形作られるように心を開こう



ヴラド、教皇の今月の祈りの意向は、「神のみことばと共に祈るために」です。聖書を教える立場から見て、私たちサレジオ会員は、神のみことばと共に祈る聖書の用い方を心得て、真に用いていると思いますか、それとも何か欠けているでしょうか？

私たちの会は、聖書のみことばを礎とした豊かなカリスマの伝統を持っていると、私は確信しています。ドン・ボスコの有名なモットー、「Da mihi animas, caetera tolle」(我に靈魂を与え、他のものは取り去りたまえ)を思い起こすだけでそれがわかるでしょう。さらに、私たちのカテカージスと教育のあらゆる事業は、ヴァルドッコの時代から今日に至るまで、神のみことばがその中に行き渡っています。

サレジオ会の歴史は、神のみことばを研究しその理解を深めた、優れた聖書学者の名前、また眞の宣教師、つまり神のみことばを告げ知らせた人々の名前でいっぱいです。でも、神のみことばに養われること、みことばを黙想し、復活された方の眞実な証人となるためにそれを保つこと、その挑戦は常にあります。私たちサレジオ会員にとって聖ヒエロニモの言葉、「聖書のみことばに無知であることは、キリストに無知であること」は、今日も意味深いと思います。言うまでもなく、これはただ知的な知識のことではなく、祈りと観想を通して得る深い知識のことです。

神のみことばを読むだけでなく、みことばと共に祈るために、私たちのため、カリエロ11の読者のために具体的な勧めはありますか？

祈りは、最初の一歩として、みことばを読むこと、すなわち、みことばを知り、学ぶことが前提になります。その後に、みことばと共に沈黙する時間 - 黙想し、みことばが私たちに触れ、問いかけ、私たちを清め、光で照らす時間が続きます。それで、私の勧めは簡単なものです。年ごとに、一つの書、書簡か福音書を選び、それを学び、深く祈ることです。そうすることで、神のみことばによって、弟子として養われ、形作られるのです。

いちばん好きな聖書の言葉は何ですか？ その理由も教えてください。

私は旧約聖書の研究者で、いくつかの書や箇所が私にとって、とても興味深いと言えます。書の中では、特に雅歌と詩編、みことばの箇所としては、哀歌3章20節から26節が大変美しいと思います。

- 20 思い出す度に私の魂は沈む。
- 21 しかし、そのことを心に思い返そう。／それゆえ、私は待ち望む。
- 22 主の慈しみは絶えることがない。／その憐れみは尽きることがない。
- 23 それは朝ごとに新しい。／あなたの眞実は尽きることがない。
- 24 「主こそ私の受けける分」と私の魂は言い／それゆえ、私は主を待ち望む。
- 25 主は、ご自分に希望を置く者に／ご自分を探し求める魂に恵み深い。
- 26 主の救いを黙して待ち望む者に恵み深い

(哀歌3・20-26, 聖書協会共同訳)



ヴラディミル・ペレグリン神父, SDB

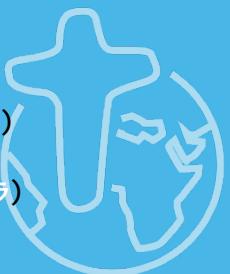
スロバキア出身、ズイリナ生まれ。2003年にサレジオ会に入会、2011年に司祭叙階。2016年、ローマの教皇庁立聖書研究所(ビブリクム)にて聖書学学位を取得。2018年からは博士課程で学びながら、トリノ・クロチエッタの神学院にて旧約聖書を教え、養成にも参加。クロチエッタで教鞭を執りながら、若者のための神学講座や出身管区での黙想指導など、司牧活動に携わる。



サレジオ会の記念を祝う2026年

フ	180. イタリア (1846年 トリノ)
オ	150. ウルグアイ (1876年 モンテビデオ)
ー	130. ボリビア (1896年 ラパス)
ラ	130. エジプト (1896年 アレキサンドリア)
ム	130. パラグアイ (1896年 アスンシオン)
	130. 南アフリカ (1896年 ケープタウン)
	130. アメリカ合衆国 (1896年 サンフランシスコ)
	120. インド (1906年 タンジャール)

120. マカオ (1906年 マカオ)
110. ドイツ (1916年 ヴュルツブルク)
100. 日本 (1926年 宮崎)
100. インド (1926年、新たに、カルカッタ)
70. スリランカ (1956年 ネゴンボ)
60. アンドラ (1966年 アンドラ・ラヴェッラ)
40. ギニア (1986年 コナクリ)
40. シエラレオネ (1986年 ルンギ)



1月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

神のみことば

神のみことばと共に祈る
(教皇レオ十四世の祈りの意向)

神のみことばと共に祈ることで、私たちの生活が養われ、その祈りが共同体の希望の源となり、より兄弟愛に満ちた、宣教する教会を築く助けになりますように。
(サレジオ会の宣教の祈りの意向)

スロバキア

